

HIV 感染者の雇用機会拡大を目指す職域での健康教育ワークショップ・プログラム実施および参加者の意識変容の評価

○久地井寿哉(くちいとしや) (1:(社福)はばたき福祉事業団)、 061
岩野友里((財)エイズ予防財団)、柿沼 章子 1、関 由起子(埼玉大学)、
大平勝美 1

【背景】日本には現在 18,000 人以上の HIV 感染者が生活し、その約 7 割が就労中と推定されている。HIV 感染症は、予防や治療はもとより、高度な服薬管理の元、継続的な就労が可能であり、HIV 感染者の雇用機会拡大と、安定的な就労継続が課題となっている。職場環境での実践的な取り組みも必要であるため、HIV 感染者就労のための情報提供・障害者就労への理解のための健康教育ワークショップ・プログラムを開発した。本報告では、健康教育ワークショップ・プログラム実施および参加者の意識変容の評価を行う。

【目的】全 4 回ワークショップ実施し、参加者を対象に、1.ワークショップ内容の評価 2.参加者自身の HIV/AIDS に関する意識や理解についての評価を行うことを目的とした。

【方法】ワークショップ参加者 (N=47) に対し、ワークショップ・プログラム終了後に、自記式質問紙により行った。主要な質問内容は、1.属性 (性別、年齢) 2.ワークショップの内容の評価 (満足度 (4 件法 range1-4)、良かった点(5 項目: 情報、活動、スキルアップ、情報交換、不安解消)、改善点 (自由記述) 3. HIV/AIDS に関する意識 (4 件法 range1-4: 働き方、治療や服薬への理解、開示 規範、コミュニケーション、HIV の疾病イメージ、HIV 感染者就労のうけとめ、HIV 感染者就労の社会規範) 4.HIV 感染が判明した場合 (1.自分、2.同僚) の具体的行動 (自由記述)。

【結果】(1) 回答者の属性: 性別; 男性 34 名 (72.3%)、女性 13 名 (27.7%)、年齢; 20 代 5 名 (10.6%)、30 代 8 名 (17.0%)、40 代 23 名 (48.9%)、50 代以上 11 名 (23.4%) (2) 満足度; 97.8%が満足 (満足、やや満足)、次回参加; 参加したい 95.6%と回答。(3) HIV/AIDS に関する意識(11 項目)は、主成分分析により、3 因子構造 (HIV 感染者就労の受け止め、病気を持ったの就労の受け止め、包括的理解) であった。(4) 職場での具体的対応は、HIV 感染者に対する理解・相談、外部機関との継続的な相談であった。

【考察】こうした取り組みの機会は貴重であり、ワークショップの有効性が示唆された。病気をもって働くことへの理解 (能力 (アビリティ)、就労実現性 (キャパシティ))、包括的な理解 (ユニバーサリズム) の新たな観点を得た。

久地井寿哉、(社福)はばたき福祉事業団、〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-20 新小川町ビル 5F、
toshiya-k@habataki.gr.jp